

【取組内容①】「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実につながるクラウド活用」



授業

1学年 保健体育

器械運動(マット運動)

目標：器械体操の連続技を習得する

【Chromebookを活用した器械運動の記録と評価】

器械運動の練習において、自身の試技と手本となる動画や、情報サイトを見比べるなどして、技術の向上に繋げる。

また、各試技について適宜録画・保存する。そのうち一番出来のよかった動画を先生に提出し、先生はその動画を基に評価を実施する。



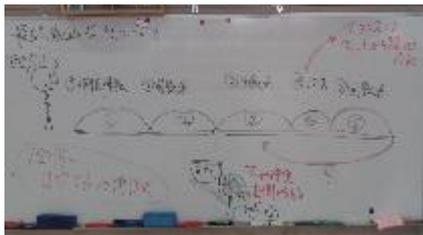
教科担当の先生のコメント

器械運動に於いて、Chromebook(動画)を活用することで、これまでの授業の振り返りや自身の技能の向上を確認することができ、自身の一番出来の良い試技を選んで提出できることで、授業に対するモチベーションアップにもつながっている。また、動画教材を参考にすることで生徒間の教え合いも発生している。

《授業の流れ》

1 学習の見直し

前時までに習得した技術や重点を確認し、試技の順序について説明



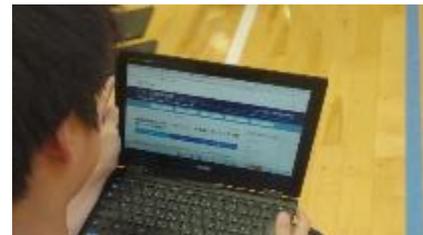
2 動画を活用しながら各自で練習

教師の指導や、動画での比較、情報サイトでの確認など、さまざまな情報を基に各種目を練習



3 試技の撮影

生徒同士でペアを組み、課題である連続技の試技を動画で撮影



4 試技の提出

自分の試技の結果でより良い動画を選択して提出



【取組内容④】「校務の徹底的な効率化や対話的・協働的な職員会議・教員研修」



研修

個別最適な学習を促進するためのAIドリルの活用

目的：AIドリルの基本的な機能を理解し 学校全体での推進を図る

【AIドリル※の全校での一斉活用】

個別最適な学習としての「持ち帰りの際の端末有効活用」や「授業内での活用事例」及び「目標設定機能」を活用することで、生徒のさらなる個別最適な学びを促進するための研修を実施しました。



研修企画担当の先生のコメント

これまでの活用は、生徒の学習量の向上に比重を置いていたが、学年などのグループごとに目標設定機能を活用することで、生徒の自主性を尊重した上での評価や進捗確認が可能となる。また、出題や採点が自動化されることによって、教師の負担が軽減されるので、学校全体で推し進めていきたいと考えている。

《研修の流れ》

1 概要紹介

AIドリルの基本操作に関するレクチャー及び活用事例の共有

2 基本操作・設定

AIドリルを活用した課題の設定方法や、生徒画面での見え方について理解

3 個別最適な学びを促進する機能

目標設定機能を使い、生徒に課題を配信したり、生徒の進捗状況を確認したりする方法を理解

4 効率的な分析・把握

つまずきの診断から、知識の定着を図る効率的な機能について理解



リーディングDXスクール事業【実践事例】

横浜市立高田中学校

【取組内容②】「インターネット上の動画教材の活用、外部専門家との学びのシーンでのオンライン活用」



2学年 美術・総合的な学習の時間

授業 **オリジナルカップ麺をつくろう** (R1年度より毎年実施)

めあて：社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育む

※外部講師：商品開発者、外部専門家：アートディレクター

【自分だけのラーメンを作るためのプレゼン作成】
 起業体験・地域貢献に関する学習の一環として、商品開発者など複数の企業に対してオンライン活用と学校訪問を組み合わせた取り組みを行った。
 カップラーメンのパッケージを美術の時間に関連付けてデザインし、そのラーメンのコンセプトや売りなどについてPRするためのプレゼン資料をGoogleスライドで作成した。プレゼンの中から代表作品を選び、実際の企業が実施するような選定の手続きも体験した。

教科担当の先生のコメント

4年前から実施している内容ですが、以前は端末を貸し借りしながらプレゼンを作成していた。現在は一人一台なので、自分のペースで時間をかけながらじっくりと家庭においても資料作成を実施できるようになった。その結果内容の充実とともに生徒自身がすすんで学びに向かう姿が見られた。また、教職員と外部の方との打ち合わせは授業の空き時間にオンラインを活用した。



《授業の流れ》

1 食育講座
「出汁の秘密」
 出汁の組み合わせなどで味が変わるなど商品開発を体験

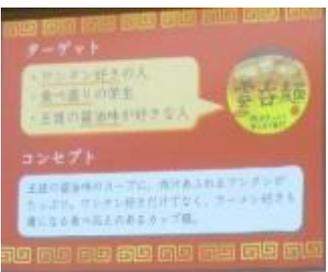
2 外部講師とのセッション
 商品開発に関する講義を通してポイントを学ぶ

3 カップ麺の蓋デザイン
 プレゼン資料作成
 蓋のデザインを作成、およびプレゼンテーションの講師より効果的な資料作成、プレゼン実施方法について受講

4 商品選考会
 代表者によるプレゼン後、アンケートツールで製品化されるカップ麺の決定

5 外部専門家とのセッション
 代表作品を外部専門家の手で実際の蓋へとデザインしてもらう

6 カップ麺完成
 選ばれたカップ麺が生徒に届く



*上の写真は2019年実施時のものです

*上の写真は2019年実施時のものです

リーディングDXスクール事業【実践事例】

横浜市立高田中学校

【取組内容③】「端末の日常的な持ち帰りによる家庭学習のために」



【端末持ち帰りへの取り組み】

昨年度までの2年間は、今度珠美先生によるデジタル・シティズンシップのオンライン授業をウェブ会議ソフトで鳥取とを繋いで実施しました。今年度は、校内の教員たちで本格的な持ち帰りに向けて指導を行いました。



先生のコメント

学校だけの方で、生徒のより適切な端末活用の実現は非常に難しい。子どもたちがこれからの情報社会を生き抜くための知恵を磨き、デジタル市民として成長できるように、生徒と保護者の方で家庭内ルールを作成するなど、学校と家庭が同じ方向を向いて力を合わせていきたい。

①「学校だより」で持ち帰り・教育DXについての案内を家庭で共有

② 「デジタル・シティズンシップ」 1・2・3学年 総合的な学習の時間
授業 めあて：端末持ち帰りにあたって自分のメディアバランスを考える

③ 「持ち帰りについて」 1・2・3学年 総合的な学習の時間
授業 めあて：端末持ち帰り実施上の留意事項等を学ぶ

1 よく使用するメディアの
名称・生活習慣を挙げる

学習支援アプリのアンケート機能や、カード作成を活用してアプリ名や睡眠などの生活習慣に関するワードを全体に共有する

2 ワードをチャート
に配置

共有されたワードを一日の生活の中での実際の時間配分にあわせてピラミッドチャート上に配置する

3 共有・振り返り

作成したチャートを提出フォルダへと提出し、友だちの時間の使い方を閲覧して今後の自身のメディアバランスについて考える

朝
学
活

○資料の受け取り

- ・Chromebook端末持ち帰り実施とご家庭での利用について
- ・同意書 兼 誓約書
- ・資料1_ネット接続方法
- ・資料2_持ち帰りに関する問い合わせ先とFAQ
- ・情報モラルリーフレット(横浜市作成)

|
時
限

○各クラスにて、担任より持ち帰りについて説明を聞く

- ・自宅での使用を希望する者のみ、持ち帰りが可能になる
- ・持ち帰りを希望する場合、都度Formsでの申請が必要である

○全校向けMeetで学校長・GIGA推進担当から資料に基づいた説明を聞く

- ・GIGA端末持ち帰りの目的、普遍的な注意事項の再周知
- ・配布資料の確認および読み合わせ

④「同意書 兼 誓約書」の提出

⑤「学校だより」にて「デジタル・シティズンシップ授業」の報告および、協力をお願いを家庭で共有

⑥端末持ち帰り開始

≪持ち帰り実施までの流れ≫